



## ●●●●● がんになった親は子どもに何を伝え、どう支えるか ●●●●●

病気のことについて「心配させたくないから子どもに知らせないほうが良い」という考え方もありますが、子どもは情報を与えられなくても何かいつもと違うことが起きていることに気づいています。

何も知らされないことで一人で悪い想像を膨らませて大きな不安を抱えることもあります。

家族の一員である子どもをケアの輪にいれ、サポートしていくのは重要なことです。

病気について子どもにわかりやすく伝えることで、子どもは安心感をもち、親から信頼されていると考えることができます。そして、子どもが感情を表現できる場を作ることは、子どもの心を落ちつかせることになると言われています。

## ●●●●● 子どもにどのように伝えるのがよいか ●●●●●

子どもに伝えることを決められたら・・・「お医者さんに言われたことをあなたに知っておいてほしいの。大切な家族だから」などの言葉で始め「聞きたくない」など拒否の言動があったら子どもが聞く気持ちになるのを待つのがよいとされています。

年齢によって理解力など異なるので様子を見ながら少しずつ話していくのがよいとされています。

### 子どもたちに親のがんを伝える時に重要な“3つのC”

**誰のせいでもない (not Caused)** 年齢の低い子どもほど「自分が悪いことをしたから・・・」と思い込む傾向があります。思春期の子どもであっても自分を責めることがあります。がんと言う病気は、“誰のせいでもなく、何をしたから、しなかったからなるわけではない”と伝え、子どもが自分のせいだと思込まないようにしてあげましょう。

**がん (Cancer)** “病気”といった曖昧な表現をすると、子どもは様々な想像を働かせより不安になることもあります。“がん”という言葉を使って、他の病気とは違うことを知らせることも大事です。子どもの年齢に応じて生活にはどのような影響があるのか、なども伝えましょう。

**伝染しない (not Catchy)** 抗がん剤治療の副作用で脱毛した親の様子を見て、「自分も何かの病気になると髪の毛が抜けるのでは」など、病気全般を恐れたりします。小さな子どもには「お母さんと一緒に、同じケーキを食べてもうつらないよ」など、理解しやすい例を挙げながら伝えるのが良いとされています。



「がん」という言葉の受け止め方は、年齢や置かれた環境によって異なります。子どもに伝えたいと思われた時に“がんになった親とその子どもをサポートする”「Hope Tree」があります。情報はこちらのHPから見るができます。<http://www.hope-tree.jp>

文責 がん性疼痛看護認定看護師 木本美由紀